京都便利堂だより

KYOTO BENRIDO DAYORI

2023 VOL. 7
5/6
初夏号

アートのある暮らしで彩りを

便利堂ものづくりインタビュー

コロタイプ工房

白水絵耶子さん◉職人の世界に飛び込み、初の女性プリンターに

【特集】

コロタイプアカデミー

やってみたい人募集中！◉初心者向け体験コースから専門レベルまで定期開催のワークショップ

日本文化の美とともに
歩み続けて135年

アートのある暮らし ◉扇子

日々の生活に美術を取り入れることは
暮らしに彩りを与えてくれます。
便利堂では、古典の名作から現代の作品まで
さまざまな美術作品をモチーフとした
アイテムを取り揃えています。
毎号その中から、おすすめをピックアップして
美術商品と暮らす日常風景をご紹介していきます。

写真：田内崇誠（便利堂写真工房）

すこし昔の大人は、まあなんとも粋な扇子の使いかたをしていたように思います。暑い夏の日の小休憩や電車待ちなどの折、扇子を懐から出して扇ぎ、畳んでしまう一連の動作は流れるように美しく、かすかに音を立てて開く具合や、親骨をカンッと叩いて畳む感じは、なんとも格好良く大胆で、使い慣れた所作を憧れの目で見たものです。

◆

大人を真似て扇子を開いたり閉じたり。上手く開かなくて、手で扇面を引っ張ったり、折り目をつけてしまったり。そんな小さな頃の思い出は誰しもあるのではないでしょうか。

◆

時は流れ、現代では風の送り方も様々。ファン付の作業服は現場の大定番になりましたし、若い女性たちは皆、小さな扇風機を手に手に闊歩してましたよね。昨夏、思わず手を出しそうになったのは首にかけるタイプの扇風機。毎年いろんな「送風グッズ」が開発されていますが、扇風機はそのアナログさゆえか、ちょっとユルくて、微笑ましいアイテムに思えてなりません。やはり同じアナログでも、元祖・扇子のスタイリッシュさ・オシャレさは現代でも唯一無二のようです。

◆

扇子はやはり日常で使ってこそ。私も十分に憧れ目線で見た大人の年齢になりました。今年の夏は扇子を新調し、粋な大人を目指すとしましょう。

◆

外出する機会も増えそうなこの夏、新しい扇子で、暑い季節を迎える準備はいかがでしょうか。便利堂では、美術柄の扇子を多種揃えております。過ごす時間と季節感を大切にする暮らし。便利堂は、そんな毎日にアートを取り入れるお手伝いをいたします。

扇子《騎馬武者図》
山口晃
￥4,400（男女兼用）

浮世絵や大和絵を思わせる手法で現代の人物や風景を時空を超えたイメージに織り込む現代作家・山口晃。そのユニークな作品から2種2サイズがラインナップ。全て国内産の、京都・宮脇賣扇庵にて職人が手作業で仕立てた一品です。

右頁：山口晃《変化朝がを乃図》
￥4,400（女性用）

特集「扇子 凛とした夏のたしなみに」

本誌に記載された表示価格は、すべて税込です。

折々の絵はがき

《桃太郎》魚屋北渓
1826年 千葉市美術館蔵

のぼりも勇ましい桃太郎が、きび団子を片手にちんまりと座り込んでいます。真剣な表情はどこかあどけなく、「えーと、桃太郎っていくつの時に鬼ヶ島へ行ったんだっけ？」と考えてしまいました。手の甲には防具がはめられ戦闘モード。よく見れば腰には細工が施された刀も差しているのです。なんといっても敵は鬼。本気でかからないわけにはいきません。

しかしお供の猿、犬、きじはおもちゃです。真顔の桃太郎をのんびりと見つめ返す光景は見る者の笑いを誘います。「きみ団子ひとつ下さるいぬの春　きしも供する桃太郎月」。歌に詠みこまれたお供たちをぐっと引き立たせる、作者の見事な肩透かし。その遊び心にため息がもれました。

日常の可笑しみやしゃれを効かせた短歌は「狂歌」の名で江戸時代中期以降に流行しました。狂歌に絵を添えて木版画にした摺物は「春興（しゅんきょう）」と呼ばれ、狂歌を趣味とする人たちが仲間内で交換するため自費出版されていたそうです。含笑庵道列の狂歌に合わせた絵は魚屋北渓（ととやほっけい）。彼は作画に取り組んだ50年のほとんどにおいて狂歌摺物や狂歌本の挿絵を制作しました。心くすぐる一枚を。大人ふたりが息を合わせた本気の応酬はまるでジャズのセッションのようです。

表紙の絵はがき：
絵はがき〈桃太郎〉
魚屋北渓
￥110

京都便利堂だより
KYOTO BENRIDO DAYORI
2023 VOL. 7
5/6 初夏号

CONTENTS

アートのある暮らし 02
便利堂ものづくりインタビュー
コロタイプ工房 04
季節のごあいさつ❼ 10
美術はがきソムリエがえらぶ
季節の絵はがき：初夏 11
【特集】コロタイプアカデミー 12
Information 16

2023年
5月1日発行
（奇数月発行）

企画・制作・発行　株式会社便利堂
Director　鈴木　巧
Chief Staff　中嶋直子
Staff　西川　愛 / 増尾麻黄 / 田中　恵

※本誌記載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

便利堂
ものづくり
インタビュー
【第７回】

コロタイプ工房

◉白水絵耶子（はくすいかやこ）さん

手ごろな商品を通じて美術をより身近に親しんでいただきたい――。企画・デザインから制作まで、妥協のない姿勢で取り組んでいる便利堂のものづくりの裏側を、作り手の声でご紹介していきます。

今回は、便利堂コロタイプ工房1世紀以上にわたる歴史の中で初の女性プリンターとなった白水絵耶子さんに、職人の世界に飛び込み、どんな経験をされているのか伺ってきました。

聞き手：社長室　前田千穂

――なぜ職人になろうと思ったのですか？

私は京都の美術大学を卒業しました。大学では版画を専攻したのですが、版画にはいろんな技法があり、幅広く面白い体験ができそうだったからです。便利堂を知るきっかけは求人広告にあった「コロタイプ」の文字です。大学で「タイプ」が印刷技法を指す言葉だと習ったので、コロタイプのことは知らなかったものの「これはきっと変わった印刷だ」と興味がわきました。昔から手を動かすことが好きだったので、手を使う仕事がしたかったんです。求人には「まず工房見学へ」と記載されていて「見てみたい！」と思いました。

――見学してどう思いましたか？

古い大きなプレス機が何台も並んでいてかっこいいなあと思いました。工房に漂うインクの匂いは、版画をやっていたこともありすごく落ち着く感じがしました。

――版画とコロタイプは同じ仕組みですよね。

基本的な仕組みは同じですが、ガラスの版を使うことや薬品については知らない事ばかりでした。そこで、大学で学んだことは一回全部とっぱらって、まっさらな気持ちで取り組むようにしたんです。まずは助手として「紙差し」のやり方を学ぶのですが、最初のうちは印刷に使う紙の枚数を扇状に開いて読む（数える）こともできませんでした。

――コロタイプは、プリンターの「機長」と、印刷する紙を一枚ずつ機械に差す「紙差し」、二人一組での作業が基本ですね。

はい。「紙差し」は差すときに印刷がずれないように位置合わせ（見当）を行いますが、少しの力加減でも位置がずれてしまいます。その加減や差す位置を覚えるのは手の感覚だけです。機械もそれぞれクセが違うので身体で覚えていくしかありません。紙にもクセ

機械もそれぞれクセが違うので
身体で覚えていくしかありません。

便利堂コロタイプ工房
明治 38 年に開設。以来、1 世紀以上にわたりこの技術を継承し続けている。カラーコロタイプを行なっているのは世界でも便利堂だけ

プレス機に
つい「がんばれーがんばれー」
って心のなかで話しかけてしまいます。

があって、それによって差し方が変わります。こうしたら位置が合う、こうすると紙のクセがとれてやりやすくなる、と毎日試し試しやっていくうちに、ふと気づいたら少しずつですがわかるようになっていました。

――だんだん感覚が養われていくんですね。

この仕事は見て触わって覚えないといけない繊細な部分がとても多いです。マニュアルはあるようでないですし、たとえば不具合が出ると、版がわるいのか、機械の調子がよくないのか、それともローラーか?とチェックする要素がたくさんあります。毎日触っているからこそちょっとした変化に気づくことができるんだと思います。

――機械や版と心を通わせているみたいです。

プレス機は朝のうち、まだきんきんに冷たいんですよ。冷たいと調子が出にくいのですが、ちょっとずつ動かしていくうちにだんだんと温まっていきます。調子が出る前には、つい「がんばれーがんばれー」って心のなかで話しかけてしまいます。恥ずかしいし先輩から笑われるのであんまり言いたくないんですけど…。

――職人の方はみんな話しかけているのかと思っていました。

先輩のなかには「機械じゃなくてそんなもん自分の技術やから」っていう人もいれば、「(機械に)祈れ!」という人もいます。私は「お願いします」と心の中でつぶやいたりしています。

――白水さんが一番好きな道具をおしえてください。

私はもう断トツでプレス機です。あれが並んでいる様子は本当に恰好いい。整然としていて、小さな部品や細部にいたるまで全てが恰好いいです。

――堂々としたたたずまいですよね。ところで白水さんは入社して何年ですか?

8年目※です。正直、もっと早い段階で本格的に印刷させてもらえると思っていましたから、ここに至るまでに何度も心が折れそうになりました。

――そんなときはどうするんですか?

ああいやだなと思いながらも続けているとまた楽しいことがあって、その繰り返しです。沈んでも浮かび上がるときがちゃんとくるから、続けるってすごいことだなあと思います。先輩はみんな勤続20年以上の大ベテランの方ばかりなので、私もくじけないように、息抜きを上手にしながら続けていきたいです。

※ 2021 年のインタビュー当時

――息抜きは大切ですよね。8年間でよかったことも聞かせてください。

これまで少しずつ刷ってはいましたが、それと並行して紙差しや検品作業もしてきました。機長がチェックした作品の刷り上がりを、さらに手作業で一枚一枚確認します。それを長く経験したおかげで、どんな刷り上がりを目指せばいいのか勉強になりました。

――いまは機長として印刷を担う立場ですね。

機長はヤレ(印刷の不具合)を瞬時に見極めてよける必要があるんですね。目に見えて濃いとか、見当がずれているものを短い時間で判断します。印刷機がゴロンと回り、すぐまた次が回ってくる。そのわずかな間に、プリントされた絵の調子や見当のずれ、傷がないかを全部見ないといけないんです。もしおかしなところが一か所でもあるままで刷り続けると全部ヤレになってしまいます。ただ、これが瞬発力が必要な作業で難しいので、今は少しずつ刷って確認しながらすすめています。

――気が抜けませんね。

そうですね。刷っているとどんどん集中力が上がっていくのがわかります。どの作品でも正解の形は必ず決まっていて、そこにできる限り近づけるように努力しています。精度を上げるのはもちろんですが、お客さまが作品に求める雰囲気を生むこともプリンターの仕事なんです。

――一枚一枚、手作業で同じものを刷り上げるには大変な技術がいるのではないですか。

前に、先輩が話してくれましたが、100%できたと思ったことはこれまで一回もないと。90点くらいはとれても100点にはたどりつけない。だからどうやったらもっとよくなるんだろうといつも考えながら仕事しているとおっしゃっていました。それが職人の姿勢なんだと思います。

90点くらいはとれても
100点にはたどりつけない。
だからどうやったらもっとよく
なるんだろうと

Robert Doisneau
《Selected Works》￥7,700
パリの街角での、シャンソンやジャズなど様々な音楽シーンをロベール・ドアノーが撮影。エスプリ溢れる6点を収録。

――近道はないんですね。

少しずつ技術を上げたい、身につけたい、みんなそんな気持ちで仕事にとりくんでいるはずです。工房にいる一人ひとりがこだわりや愛着をもって作業している、近くで見ているとそれがよくわかります。

――フランスの写真家ロベール・ドアノーのポートフォリオは白水さんがプリントされました。

プリントしているときは、目指す先がはっきりわかっているのにどうしたらそこにたどり着けるのかわからない苦しさと葛藤がありました。どの薬品を使えばどうなるかなどの塩梅は経験しないと覚えられませんから、先輩から技術的な細かいアドバイスをもらいながら手を動かす毎日でした。今も毎日切磋琢磨しています。ドアノーの作品は、一つひとつにお話しがついていそうなドラマ性があって本当に素敵ですよね。

――音楽やダンスにまつわる作品をテーマにした6枚セットですが、見飽きることがありません。

コロタイププリントは職人が手作業で一枚一枚仕上げていくため、ほかの印刷と比べるとどうしても時間がかかります。6枚の調子を合わせながらあれだけの数をプリントしたのは初めてで、私にとっては思い入れのある作品になりました。

――これからの目標を教えてください。

今はまだ目の前のことしか考えられませんが、例えばインクの色の出し方ひとつ取っても、この仕事にはすごく力が必要なんですね。だからこの先どれだけ経験をつんでも、きっと私には男性の先輩たちと同じようなスピードでは刷れないと思うんです。でもスピードがゆっくりであっても、女性ならではの繊細さや優しさ、温かみが作品に出せる、ていねいに作業できる職人になりたいです。

――それは白水さんの個性ですね。やってみたいことはありますか？

便利堂には、自分の作品をコロタイプで作りたいというアーティストの方が国内外から来られます。作家さんとお話しながら作品を一緒に作っていく作業も楽しそうですよね。「こんな風にしたい」と言われたことをすっとできるようになりたいです。そのなかで、これまで美術を勉強してきた経験も活かしていけたらいいなと思います。

※過去にメルマガで配信した記事を再構成しています。インタビューのバックナンバーはこちら

便利堂本社に併設された「コロタイプギャラリー」では、文化財の複製やアーティストのポートフォリオなど、折々にコロタイプにまつわる展示をお楽しみいただけます。

ギャラリー奥にある窓にご注目。どうぞ、近寄って中をのぞいてみてください。窓の向こうに見えるのがコロタイプ工房です。黙々と立ち働くコロタイプ技師たち、使い込まれた道具の数々、機械の動く音、かすかに漂うインキの匂い。ちょっとした工場見学のようなワクワクした気分を味わっていただけるはずです。

工房には大きな機械が5機、ずらりと並んでいます。黒く、堂々としたたたずまいの、見るからにクラシックな機械たち。半世紀以上にわたって使いこまれて来ました。

「機長」と呼ばれるプリンターが、手と足を使って機械をコントロールしながら目は休むことなく刷り上がるプリントを追い、その調子を見ながらインキを特製ヘラで前後に規則的に動く印刷機のインキ台の上に盛っていきます。ペアとなる助手は繊細な指さばきで正確に紙を機械に差してゆきます。

今日も工房からは機械が動くゴロンゴロンという低い音が聞こえ、白水さんをはじめ、何人ものコロタイプ技師たちが手を動かしています。百二十余年にわたり継承されてきた職人の手技をぜひ間近でごらんください。みなさまのお越しをお待ちしています。

コロタイプギャラリーから ちょこっと工房見学ができます！

コロタイプ製の扇子も
充実のラインナップ！

上《○△□》仙厓
右下《松林図屏風》長谷川等伯
左下《鳥獣人物戯画》
各￥4,400

ギャラリーの後は 京都便利堂本店へ

さまざまな商品を取り揃えてお待ちしております。

季節のごあいさつ⑦

こどもの日

5月5日

「手紙なんてちょっとおおげさかな。」でも、感謝やお礼、ともに喜び合うお祝いの気持ちなど、ときには手書きではがきやメッセージカードにちょっと季節の言葉を添えて送ってみてはいかがでしょうか。折々の季節のごあいさつをご紹介します。

Season Greetings vol.7

こどもの日の始まり

もともと端午の節句であった5月5日は、1948年より「こどもの日」として国民の祝日に定められました。こどもの日とは、「こどもの人格を重んじて幸福を願い、母親に感謝する日」だそうです。端午の節句は男の子をお祝いする日として受け継がれていますが、こどもの日は男の子・女の子を問わずお祝いする祝日です。しかもそこに母親に感謝するという要素もあっただなんて！良いことを知りました（笑）。

世界の「こどもの日」

こどもの日は世界中でその国の事情に応じて祝日が定められており、国連ではこどもの福祉や権利の向上を目的に、11月20日を「世界こどもの日」"World Children's Day"として定めているそうです。海外のこどもの日の過ごし方はさまざま。中国では学校がお休みになり、トルコではこどもたちのパレードが行われます。親から子へプレゼントを贈る国もあるそうです。しかし世界で共通するのは、こどもが主役の楽しく過ごす一日であるということ。日本では、大型連休の一日としてあまり意識せずに過ごしてしまいがちですが、気候のよい5月の陽光のもと、こども祭が行われる地域なども多いでしょうし、各地で親と子が笑顔で過ごす祝日になっていそうですね。

こどもの日にメッセージを添えて

こどもの日となった端午の節句ですが、元々節句とは季節の節目に節句料理を食べて万病と邪気を払い、無病息災を願う日。家族・親族で集まる機会も多いこどもの日には、親子で日本の伝統を思い返してみるのもよいですね。便利堂では、端午の節句にぴったりな菖蒲や蓮、鯉のぼりなどの絵はがきがいっぱい。作品の中も光あふれるこの季節、こどもや孫たちの成長を願い、メッセージ入りの絵はがきをおくってみてはいかがでしょうか。

【カードの文例】

便利堂オンラインショップでは、数多くの絵はがきの中から、美術はがきソムリエが厳選しておすすめするポストカードを毎月お届けする《美術はがきソムリエからの定期便》を発売いたします！　くわしくは下のQRコードからご確認ください。

♬毎月ふみの日に、ソムリエが厳選した美術はがきが1年間ご自宅に届きます♪

美術はがきソムリエからの定期便

◉6月20日より発売開始！くわしくは専用サイトから➡

美術はがき
ソムリエがえらぶ

季節の絵はがき

初夏

1

2

5

3

4

1《驟雨一過》竹内栖鳳 京都市美術館
2《芍薬 カナリア》葛飾北斎
3《名所江戸百景 大はしあたけの夕立》
歌川広重
4《名所江戸百景 堀切の花菖蒲》
歌川広重
以上、東京国立博物館

5《雷神図》伊藤若冲 千葉市美術館
6《苔寺》堂本印象 京都文化博物館
7《対柳居画譜 蓮に蛙》柴田是真
8《柳蔭図屏風》横山大観
以上、東京国立博物館

5以外：¥110 / 5：¥275

6

7

8

雷鳴とともにこちらを覗く雷神様…なんだかご機嫌ななめです。若冲が着想を得たと言われる大津絵《雷公の太鼓釣り》は私も好きな題材で、うっかり太鼓を落としてしまった雷様の、「やんなっちゃうなぁもう」と言いたげにいそいそと釣りあげる姿がとてもコミカルで可愛らしいのです。

なるほど、ぶすっとした若冲の雷神様も励ましてあげたくなりませんか。うっとおしい梅雨の時期にも、こんな雷神様のドタバタ劇があるなら少しは気が晴れますね。

増尾麻黄（ますお・あさぎ）：
美術はがきソムリエとして、手のひらサイズの美術館〈絵はがき〉の楽しみ方をご提案します。ご紹介した雷神図、個人的な推しポイントは「虎の毛皮パンツ」です。あのふわっふわ、さすが若冲。店舗で見かけたらぜひお声をかけてください。

BENRIDO
COLLOTYPE ACADEMY

コロタイプを知りたい
やってみたい、が
もっと身近に

【特集】

コロタイプアカデミー

コロタイプを学び、実践できる場を提供したい
そんな思いから、便利堂では
定期的に開催するワークショップ
《コロタイプアカデミー》を開講しています。
初心者向けの体験コースから
作品づくりに取り組む専門レベルまで
受講者に合わせたプログラムを
経験豊かな講師が指導します。

各コースでは便利堂が独自に研究を進める、環境にも人体にも優しい感光乳剤を用いた版「コロタイプティシュー」を使用します。未来へ繋がる新しい技術を習得しながら、コロタイプの面白さを安心して体験いただけます。

「興味はあるけど、難しいのでは?」
そんな心配はご無用です。
体験コースは、就学前のお子さまでも楽しめる手軽さ。
版の上にローラーをコロコロと転がし、インキが版に馴染みだすと、だんだん画像が浮かび上がってきます。
「これぐらいの濃さかな?」
「もうちょっとここを出したいな」
色々と思いめぐらせ、自分好みの感じになって来たら、さぁプリントのタイミングです。
版の上に好みの紙を置き、ちっちゃなプレスマシンに挟んで通すだけ。
ペロリと紙をはがすと、自分だけのオリジナルプリントが完成です。
写真は、スマホで撮ったデジタル写真はもちろん、昔のプリントでもご相談いただければ大丈夫。
楽しくて、ローラーを転がす手がきっと止まらなくなりますよ!

《受講者の声》

「コロタイプへの愛とポリシーが伝わってきました。また是非参加し、作品制作に生かしたいと思います。」

講師　山本 修

コロタイプ研究所所長・マスタープリンター

18歳の時にコロタイプに出会いました。高校3年の時、教師が便利堂で印刷職人にならないか、と勧めてくれたのです。これまで40年間、毎日試行錯誤の連続でしたが、納得の一枚が刷れた時の喜びを味わうために年月を費やしてきたと感じます。コロタイプアカデミーでは、私がこれまでに学び習得した技や経験と知識からコロタイプ技法をわかりやすく伝授し、新鮮な気持ちでみなさんとともに楽しみたいと思っています！

Photo by Bjon Abelin

プロフィール：1960年、京都生まれ。正倉院文書や伊藤若冲《動植綵絵》、《蒙古襲来絵詞》といった貴重な文化財の複製を制作。近年は写真作品のコロタイプリントの制作や、コロタイプ表現の可能性を広げ、次世代に継ぐ技術開発をすすめる。大学での講演やフォトフェスティバル等でのワークショップの開催をとおしてコロタイプの普及活動を行なう。

「コロタイプについて、何も知らないままの参加でしたが、親切、丁寧にご指導いただき、あらためてコロタイプへの興味が高まりました。継続して勉強を続けたいと思います。」

「細かいディテールまでよく出るので驚きました。次回は、また違うタイプの作品で参加したいです。」

1日コース

まずは気軽に体験コースでワクワク

コロタイプのガイダンスと工房見学の後、暗室でコロタイプティシューへの画像の露光と現像作業をします。版が乾いたらテスト刷りを重ね、素敵な手製の絵はがきを仕上げましょう。

時間：10:00 – 17:00
受講料：16,500 円
定員：6人
画像：2枚（はがき2点）

2日コース

コロタイプの理解を深め大判サイズのプリントに挑戦！

コロタイプ工房をフルコースで見学後、映像やプリントを閲覧しコロタイプについての理解を深めます。暗室に入り、コロタイプティシューへの画像の露光や現像等一連の作業を体験し、刷りの作業に移ります。2日コースでは、はがきサイズだけではなく、8x10inch（203x254mm）の大判サイズも挑戦。バリエーションに富んだ制作をすすめ、コース修了時には調子良く刷り上がったコロタイププリントを完成させましょう。

時間：10:00 – 17:00 × 2日
受講料：33,000 円
定員：6人
画像：3枚（はがき2点、8x10inch 1点）

5日コース

版の作り方から刷りまで学び作品を完成させよう！

初日にコロタイプ工房を見学し、歴史や制作工程、新しい技術にまつわるガイダンスを行います。その後暗室に移り、コロタイプティシューの作り方から露光・現像のプロセスまで習得します。アドバイスを受けながら刷りの実技を進め、作業の進行状況に合わせて、版の元となるネガのレタッチやプリントのスポッティングにも挑戦します。コース修了時には作品として展示できるレベルのコロタイププリントの完成です。

時間：10:00 – 17:00 × 5日
受講料：82,500 円
定員：6人
画像：6枚（はがき2点、8x10inch 4点）

BENRIDO
COLLOTYPE ACADEMY

コロタイプを知りたい
やってみたい、が
もっと身近に

お申し込みや開講スケジュールは、こちらの専用サイトでチェック！

グループでのスタジオ貸切や、出張ワークショップなどのご相談も大歓迎。お気軽に専用サイトからお問い合わせ下さい。

京都便利堂オンラインショップ
www.kyotobenrido.com

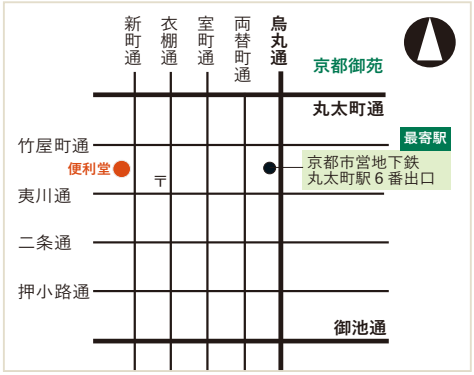
京都便利堂本店

夜７時まで、土曜も営業。店舗情報は SNS でチェック！

便利堂本社１Ｆには、美術商品を取り揃えた京都便利堂本店を開設しております。ぜひ京都にお越しの際はお立ち寄りください。

【営業時間】 10：00 ～ 19：00
【 定 休 日 】 日・祝日
【Telephone】 075－231－4351（代表）

Instagram @ kyoto.benrido
twitter@kyotobenrido
facebook@kyotobenrido.shop



【アクセス】
〒 604-0093
京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町 302 番地

〈公共交通機関でおこしの方〉
・市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車 ⑥番出口より徒歩７分
・市バス 「府庁前」下車徒歩５分

〈お車・タクシーでおこしの方〉
・京都駅から 15 分、お客様駐車場あります。
・タクシードライバーに「新町通り夷川（えびすがわ）上がる」とお伝えください。

コロタイプギャラリー

便利堂コロタイプギャラリー春季企画展示
桑嶋（つなき） 維（しゅあん）《朱殷：日本に在る色 / Shuan: The Color of Japan》展

京都便利堂本店がある便利堂本社には、年間を通じてさまざまなコロタイプ作品を展示する〈コロタイプギャラリー〉が併設されています。この４月からは写真家・桑嶋 維の代表的シリーズ〈永遠のアイドル〉〈真夏の死〉などのコロタイププリントを展観する《朱殷：日本に在る色》展を開催予定です。

会期：2023 年 4 月 14 日（金）～6 月 4 日（日）
開廊：平日 10：00 ～ 17：00
休廊：会期中無休、ただし 12：00 ～ 13：00 は休廊
入場：無料